

# 福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館 ニュース



発行  
(財)第五福竜丸平和協会  
連絡所 〒136-0081  
東京都江東区夢の島3-2  
都立第五福竜丸展示館内  
電話 03-3521-8494  
URL http://d5f.org

## 水爆実験被災 50周年にむけて 3・1ビキニ事 件記念のつどい



三月一日午後、第五福竜丸平和協会の主催による「三・一ビキニ事件記念のつどい」が新宿区の本青年館で開かれ、会場いっぱいの人々が参加しました。今年のはじめは、ビキニ水爆実験被災50周年の来年にむけて、平和協会の五〇周年記念プロジェクト

トのスタートの催しとしておこなわれ、報道機関による取材も多数ありました。

つどいは、はじめに平和協会の川崎昭一郎会長の主催者あいさつと五〇周年記念事業の概要についての報告を受け、第五福竜丸被災当時の模様を伝えるニュース映像と久保山愛吉さんのラジオインタビューが上演されました。

つづいて、元乗組員の大石又七さんが「私の五〇年」と題して記念講演しました。大石さんは、終戦直後に一家を養うために中学を辞めて漁師になった生い立ち、第五福竜丸に乗ることになった経過と漁船福竜丸について「無理して大きくつくってあり、木造船としてはとても危ない船だった」と語りました。

被災後の国立第一病院での入院生活では、ベットが隣りだった久保山さんが病状の悪化で脳障害を起こした様子や久保山さんの死後、次は自分かなどと乗組員に不安がひろがり、病院側も患者が自殺するのではないかと警戒した話などが紹介されました。大石さんが強調したのは、日米

政府の事件決着の経過でした。水爆実験の被災という、三たびの原水爆の被害とマグロ騒動や放射能雨など国民全体への不安がひろがり、原水爆反対の世論が高揚するなかで、アメリカの水爆実験に協力するという政府や米政府の態度へ批判が高まり、両国政府は危機感を募らせ政治決着がはかられた経緯が紹介されました。

また、この年の三月二日に予算委員会を通過した原子力開発の推進についての日米関係が、事件の早期決着の背景にあることを指摘しました。

大石さんは、政治決着により、事件のこと被害のことが忘れられ、また自分達も被爆者として認められないまま、さまざま苦しみを負って生きざるを得なかったこと、働き盛りで病に冒され、苦しみの中に亡くなった仲間の無念を晴らしたいとの願いを訴えました。

この日の大石さんの証言は、映像記録として編集されます。

### (3めんからつづく)

「第五福竜丸のことは小さいころ聞いたことがあるけれど、くわしいことは今日初めて知りました」  
「紙芝居には心がうたれました」  
パネルや本、資料などを見て、第五福竜丸について、ビキニ環境での水爆実験について、理解が深まったと参加者からとても好評でした。

三月一日にはおかやまコープで、また一六日には倉敷医療生協コープくらしき診療所の「健康まつり」で、平和の展示などの取り組みをします。3・1ビキニデー行事への参加報告や本、資料の展示などをおこない、核も平和もない世紀をめざす世論づくりに役立てたいと思っています。

(倉敷医療生協平和活動委員会  
・おかやまコープ(倉敷地域)平和とくらし委員・くらしき平和委員会)

## ビキニ被災五〇年にむけて想うこと

### 服部 学

この福竜丸だよりの二五九号に「放射線と放射能」という一文を書いたことがある。放射線と放射能という言葉は新聞記事などでも混同されて用いられることが多い。天然または人口の放射性物質が放射線を出す。キュリー夫人はその能力

とところで放射線の人体に及ぼす影響だが、原子病といった特定の症状があるわけではない。放射線に照射されれば細胞の一部が破壊され、その結果としてガンとか白血病といった病気があらわれてくるのである。

放射線と名付けたのだが、後に放射能を持った放射性物質のことも放射能と呼ぶようになった。一口に放射線といってもいくつもの種類があるし、そのエネルギーもいろいろである。当然その影響や効果も異なってくる。

原爆や水爆など核兵器の効果には、想像を絶する高熱と爆風ばかりでなく、強烈な放射線の恐ろしさがある。久保山さんは直接には肝障害で亡くなられたが、その原因が水爆実験による「死の灰」の放射線であることは明らかである。

因みに「死の灰」という言葉は日本独特のもので、外国では通用しない。これは水爆の爆発による高熱で珊瑚礁が砕け、上空で小さい灰状になったものに強い放射能が付着して遠く離れた第五福竜丸の甲板上に雪のように降ってきたものなのだが、「死の灰」とはなかなかうまい表現だと思ふ。

放射線の影響については前記の一文に「放射線の人体に対する影響もいろいろあるが、わかりにくいのは少量の放射線の確率的影響なるものである。つまり少量の放射線が多数の人体に当たっても、総ての人に同じような影響が少しづつ現れるのではなく、大部分の人は何ともな

放射線の体外照射と体内照射の違いもある。放射性物質が体外にあってその放射線を浴びる場合と、食べ物等と一緒に放射性物質が体内に入り、骨や筋肉に付着して放射線を出し続ける場合とである。もちろん体内照射のほうが影響が強い。

核兵器の恐ろしさを理解するには、放射線や放射能の影響についても、なるべく正確に理解されたほうが良いと私はかねがねから思っている。もちろん展示館の見学に来られる小学生や中学生にいきなり「放射線障害とは」などと説明しても難しいだけだと思ふ。

しかし核兵器が爆発すると「死の灰」とかいう物質がたくさん出来てばらまかれる、そこから出てくる「放射能」とかいうものが人間に悪さをするのでというところが少しでも頭の底に残っていれば、将来、放射線の意味が理解しやすくなるのではないだろうか。

五〇周年の企画の一つとして、小・中学生を対象に夏休みとか適当な日を決めて、専門家にごく簡単な放射線の実験をやってもらうことはできないだろうか。たとえば現在市販されている放射線測定器(ガイガー計数管等)とそのメモリ調整用の微量の放射線源があれば、特別の部屋や装置がなくとも、普通の戸外で測定器を使っていくつもの種類の実験をして見せることは可能だと思う。また質問があれば(これが大事なことだと思う)、専門家ならばその本意をやさしく説明することもできるのではないだろうか。

(立教大学名誉教授、第五福竜丸平和協会理事)

第五福竜丸の「博物『観』  
つくり」  
展示館ホームページ  
「http://d5f.org」 (下)

野 口 昇 明

リアルとつながるバーチャル、現実を超えた体験

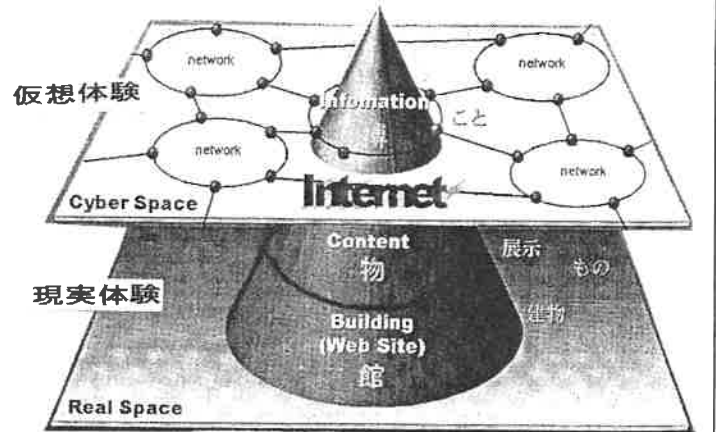
地球表面は天気や電離層など多くの層で覆われています。インターネットは、これらと同じようにデジタル情報が縦横に行き交う地球につくられた「情報層」、仮想の情報空間 (Cyber Space) なのです。現代社会は現実空間 (Real Space) とこれらを総合した情報社会 (Cyber Society) の中で送る活動が行われ、この時代の「博物館」にとっても「情報」のあり方が特に重要になると考えられます。

この時代の博物館活動を考える

とき、私は三つの層を持って現実の地表 (Real Space) に立つ円錐をイメージしました。

地上には「館」= 物を収め保管・展示するための建物があってその上には「物」= 館に収めて展示する「もの」があります。そして最上層には「博」= 物が持つ記憶・歴史や展示などによって導かれる知識・情報があって、この「博」の層は情報空間に直接つながることができる仮想と現実の接点= インターフェース (ホームページ) なのです。

「博」「物」「館」: 3つの層の円錐



日本においても高速・常時接続があたりまえになり、インターネットは普通のコミュニケーション基盤になってきています。そしてインターネットの膨大なホームページの集まりは地球規模のデータベース= 辞書・百科事典と違ってパソコン上の知的作業に直

接ネットワークされます。かつて本・資料や辞書を傍らに置き、鉛筆を手に紙に向かって行った知的作業の多くがパソコン上で行われる時代です。印刷本など中間媒体の存在意義が変わるダイレクトの時代、ますますオリジナルの「もの」の価値と情報「こと」が重要になる時代といえます。

インターネットで新たな航路ひろげる

来年三月一日、福竜丸は被災五〇年を迎えます。戦後日本の遠洋漁業の歴史と核の現実を見つめてきたオリジナル体験者であるこの船は、朽ち果てる危機から蘇り、夢の島に船体を展示する「館」に保護・保管されています。

AVSvは、この上で核や平和に関する記憶・知識の「博」を情報空間へと発信し、仮想体験・実体験へと導く博物館サイトとして拡充を図るとともに、これらのデジタル表現手法を現実の展示館にも適用・応用して、ホームページとの連動性を高めて連続した立体的な情報・知識と体験の提供と、実際の来館者はじめ時間・距離を越えたユーザーとのコミュニケーションも図りたいと考えています。

現実と仮想の二つの世界を合わせて創られる、頭脳と直結する広がり可能性を持ったあたらしい社会、この時代の博物観AVSvを考えて行きたいと思えます。

(第五福竜丸HP製作者、プログラク・デザイナー/千葉大学工学部都市環境システム学科)

わすれないでー福竜丸の紙芝居

朝 倉 彰 子

昨年、東京でおこなわれた日本平和大会で、私ははじめて「夢の島」に行き、第五福竜丸に出会いました。

第五福竜丸がアメリカの水爆実験でヒバクしたのは私が中学生の時。「放射能マグロや放射能雨」で日本中が大騒ぎだったことは今でもよく覚えています。

また夢の島に捨てられていた第五福竜丸が保存されていることになったという話も聞いていましたが、実際に自分の目で第五福竜丸を見て、元乗組員の大石さんのお話を聞いて、本や資料をよんで、核実験の恐ろしさ、ヒバクされた方や家族たちの無念さ、つらさを知り、3・1ビキニデーの運動の

大切さを実感しました。

私の所属する倉敷医療生協平和活動委員会では、毎年二月一日「平和フェスティバル」をおこなってきました。今年のフェスタでは「戦争を捨てた国コスタリカ」の映画上映と早乙女愛さんの講演。ほかに写真展、平和の歌声、パザーそして紙芝居をすることに決めました。今回の写真展には「第五福竜丸展示館」からお借りした写真パネル一八点も展示することにしました。



内山尚三さん  
ご家族からのご寄附

第五福竜丸平和協会の元評議員、顧問の内山尚三さん(法政大学名誉教授、元札幌大学長)は、昨年十二月一日に八二歳で亡くなりました。このほど夫人の内山章子さんから、「世界と日本の平和のためのご活動に役立てたい」と一〇万円の寄附をいただきました。

章子夫人から寄せられた手紙の一部を紹介します。

内山の専攻は民法でございます

したがその研究は社会的活動、とりわけ核兵器廃絶を目指す活動に終始取り組みました。なかでも全力をあげて推進したのが「世界平和アピール七人委員会」でした。

平凡社社長の下中弥三郎氏の提唱により一九五五年には発足した平和問題に関する意見表明のための集まりで、下中、植村環、茅誠司、上代たの、平塚らいてう、前田多門、湯川秀樹の各氏が結集しておりました。内山は一九六〇年に七人委員会の事務局長に就任し亡くなるまでそのポストにあり四年にわたって世界に向けて「平和のアピール」を発し続けまし

た。

内山は学徒出陣の生き残りで、学業半ばで入隊、病を得て兵役免除となり戦場に赴くことを免れました。内山の長兄は学問研究で前途を渴望されながら召集され、朝鮮で死亡しました。その遺影を胸に死ぬまで「国家間の紛争解決の手段として戦争だけはふたたび起こしてはいけない」とひたすら思い続け平和を強く希求しておりました。

ご寄附を受け取った川崎昭一郎平和協会会長は、ビキニ水爆被災五〇周年の記念事業にいかしたいとお礼をのべました。

紙芝居の前身は何にしようかと検討したとき、私は「わすれないでー第五福竜丸」の絵本(赤坂三好・文・絵)を紙芝居にできないかと提案しました。

第五福竜丸展示館で購入したこの絵本は物語りも絵もとても心をうたれたものがありました。

\* 「ぼくの名前は、第五福竜丸。ぼくの話をきいてください」

紙芝居の語り手は、平和活動委員会のメンバーのAさん。目の不自由な人に医療生協の新聞の内容をテープに吹き込むボランティアをしているだけあって、訴えかけ

(4めん下につづく)